

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100566
法人名	有限会社 ユートピア
事業所名	グループホーム 福寿荘
所在地	佐賀市西与賀町大字屋外1236-7 (電話) 0952-28-4085

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 1 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 12 日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.1

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(平成20年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック・田中なおき歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に程近い静かな住宅街にあり、ホームが通学路に面しているため登下校時の小学生と交流することもある。南向きと東向きに配置された居室は、陽光が差し込み明るい空間となっている。居室は十分な広さが確保され、それぞれ思い思いの調度品が持ち込まれ、個性あるしつらえとなっている。さらに各居室内にトイレと洗面台が設置され、プライバシーや日常生活の自立について配慮されている。また、社会との接点を大切にしたい支援として、買い物やドライブ・外食などの外出や、ボランティアや地域の方との交流などが行われている。家族は生き生きとしたホームでの暮らしを、訪問時や月1回発行されるホーム便りの写真で具体的に知ることができるよう工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を理念に加えられるよう求められていたが、「地域社会との交流を密にし、地域の人達との触れ合いを大切にしていきます」というように改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義をサービスの質の向上のためと理解されており、職員全員による自己評価を実施し、意見の集約を行いまとめられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度開催される会議は、地域住民代表、行政、家族、職員2名が参加されている。議題を予め設定し、現在取り組んでいる内容や課題について報告し、参加者から意見を求め、事業所運営に反映させるよう努められている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月1回発行するホーム便りで、具体的なホームでの暮らしぶりを家族に報告されている。身体の状態などは個別に、その都度家族に連絡をするよう努められ、家族の来訪時には意見や要望を出してもらえよう声掛けが行われている。そこで出された意見や要望等は全職員で共有化し、運営方針に反映されるよう努められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所が通学路に面しており、登下校時の小学生との交流があり、地域の運動会に見学に行ったり、敬老会や独居の集いに招待を受け参加されている。また地域のふれあい祭りではゲームに参加して、住民の方たちとの交流を深められている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「先輩として尊敬の念を持って、相手の立場に立って同じ目線で援助します。優しい笑顔で接します。」という理念に加え、「地域社会との交流を密にし、地域の人達とのふれあいを大切にしていきます。」という姿勢も明確にし、地域の中でその人らしい生活が送れるよう支援することを目標にされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすいところに掲示され、常にスタッフ同士で確認されている。「認知症のある方は私たちの鏡である。ケアする人の姿が相手に伝わる」という言葉を基本姿勢に、入居者の方に尊敬の念を持ち、優しい笑顔で接することが実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会へ見学に行ったり、敬老会や独居の集いに招待を受け参加されている。また、地域のふれあい祭りではゲームに参加して、住民の方たちとの交流を深められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義について理解されており、自己評価は全職員により行われている。外部評価の結果に基づき、サービスの質の向上のためケアのあり方について再確認し、具体的な改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、参加者の都合に合わせて開催し、地域住民代表、行政、家族、職員2名が参加されている。議題を予め設定し課題の報告を行い、会議の中で意見を求め改善方法が探れるよう努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員会以外にも、施設行事に参加してもらうなど、2ヶ月に1回は市の担当者がホームを訪問している。また、必要な場合には、電話で問い合わせに対応してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりが具体的に分かる写真や、職員の異動などは毎月1回発行するホーム便りにより定期的に報告されている。さらに家族の訪問時には個別の状況を口頭で伝え、心身の状態についてはその都度家族に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談時には、率直に意見や要望を出してもらえるよう声かけがなされ、出された意見などは職員全員で共有化し、運営に反映させるよう取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がないようスタッフ全員で努力されている。やむをえない異動がある場合には、入居者がダメージを受けないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が交替で何らかの研修が受けられるよう配慮され、外部研修の内容により適当な職員が勤務として参加できる機会が確保されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は職員が他の事業所との交流が持てる研修会への参加の機会は提供され、その場での情報交換を、サービスの向上に活かしている。しかし、その後の交流は個人的な範囲にとどまり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等は希望はあるができていない。	○	グループホーム協会に加入されているので、その研修会で知り合った職員の所属する事業所と連絡を取り合い、勉強会や相互訪問等の交流から、更なるサービスの質の向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず施設を見学する機会を設け、入居者と共に過ごしてもらうことで、本人や家族が理解・納得して入居できるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に過ごすことで、昔のことを尋ねたり、知らないことを教えてもらったりしながら、互いに理解しあい、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活のリズムを理解し、会話・つぶやきの中から、本人の思いや意向を把握するよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には口頭や書面で意向を尋ね、介護計画は月1回の事業所会議で全職員による検討を行い、作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態の変化や関係者の気づきに伴い、入居者・家族の意向や職員の意見を取り入れて、現状に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や生活スタイルに関して、本人・家族の状況に応じて対応され、通院や美容室への送迎など必要な支援について柔軟に実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族による受診となっているが、必要に応じて職員が同行したり、医師の指示を電話で確認するなど、適切な医療を受けられるよう取り組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時に家族へホームの方針を伝えている。体調変化があった場合は、その都度家族やかかりつけ医と話し合い、本人の思いを尊重する支援が行えるよう努められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	わかりやすい言葉遣いと、入居者それぞれが希望する呼称で対応し、トイレは各居室に設置され、さりげなく誘導されている。記録等の個人情報は取り扱いに配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や日中の過ごし方など、一人ひとりの状態や希望に配慮し、柔軟に対応されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの好みを把握し、職員も一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気の中で食事されている。また、できる方には調理の下ごしらえや片付けなども職員と一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週3回以上は入浴されるよう支援されている。曜日ごとに交替で入るため、毎日入浴することも可能であり、本人の希望に応じて入浴日を変更することも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	天気の良い日は散歩に出たり、カラオケや踊りなど、長年楽しんできたことを取り入れて実施されている。洗濯物たたみは日課であり、干し柿作りなど季節ごとにその方の力を活かした支援に努められている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望にそって散歩や買い物、外食などが支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、職員の見守りの中で自由に過ごせるよう支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を決め、訓練を年2回実施されている。以前、入居者で混乱された方がおられ、職員のための訓練となっていたが、入居者も参加する避難訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を把握し、栄養バランスに注意し、身体の状況や気分に応じて言葉かけを行い支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングや廊下は明るく、壁には入居者の共同制作による季節感のある貼り絵が飾られている。生活感のある調度品や、光や風の快い家庭的な生活空間が整えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた箆笥など調度品や仏壇などが持ち込まれ、本人や家族と相談しながら、本人が居心地よく過ごせるよう支援されている。		